

令和二年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現状 | 評価の観点 | 実施状況の判断基準 | 判定基準 | 備考 |
|---------------------|-----------------------------|-------------------|--|---|--|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1 授業実践力の向上 | ① 教員が教科で指導案を作成し授業実践を行う。 | 研究研修課 | 昨年度の研究での指導案作成はクラブと委員会の主担当の教員のみが行った。 | 【努力指標】 教科で指導案を作成し授業実践を行う | 年間2回以上、教科の指導案を作成し、授業実践を行った教師の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。 | 【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。 | 指導案を含む授業実践ファイルの評価（7月、2月） |
| | ② ICT機器を授業の中で効果的に活用する。 | 情報教育課 | 授業ではPCでプレゼンテーションソフトの活用が主にされているが、教科によってばらつきがあり、さらなる活用の余地がある。また、昨年度iPadが新たに16台導入されたが授業の中で効果的に活用しきれていない。 | 【努力指標】 ICT機器を授業の中で活用した。 | 授業でICT機器を活用した教員の割合がクラスの割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。 | 【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。 | 教員を対象としたアンケートによる評価（9、2月） |
| 2 組織的・系統的なキャリア教育 | ① 家での自分の役割を継続して行うことができる。 | 小学部 中学部 高等部 | 本校では、昨年までの3年間「キャリア発達を促す学校作り」を研究テーマに取り組んだ。ただ、取り組んだ内容が保護者に十分伝わっているとはいえない。そこで、キャリア教育の実践を家庭を含めて般化させていくためにも、学校と家庭が連携して児童生徒の活動への意欲を育てる取り組みとしていきたい。 | 【努力指標】 学校と家庭とで役割を決め、一定期間の取り組み回数増加を目指す。 | 家庭で決めた役割について、7月12月の一週間のうち、4日以上できた児童生徒の割合 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。 | | 5月に役割決定し、保護者対象としたアンケートによる評価（7、12月） |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現状 | 評価の観点 | 実施状況の判断基準 | 判定基準 | 備考 |
|-----------------------|---|-----------|--|---|--|---|---|
| 3 安心・安全な学 校づくり | ① 各学部、各クラスで 防災に関する学習を 取り入れる。 | 生徒指導 課 | 現在、全児童生徒は学期ごとに家庭で 内容を確認して防災リュックを持って きている。持ってきたものに関しては そのまま保管しているクラスが多いの が現状である。防災教育に関する教職 員の意識向上も図る必要がある。 | 【努力指標】 年間2回以上、各クラスで 防災リュックに関する学習 や確認を全学部で行う。 | 年間2回以上、各クラスで防災リュッ クに関する確認や学習を行ったクラス の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。 | 【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組 みを再検討する。 | 担任アン ケートによ る評価 (9、2月) |
| | ② 性に関する指導を 行った際に使用した 教材等を集めるフォル ダを、校内サー バー上に作成する。 | 健康推進 課 | 昨年度より「性に関する指導」計画に 基づき、性に関する保健教育を実施し た結果、児童生徒の約75%が授業とし て受けることができた。今後も性に関 する保健教育を充実させ、児童生徒が 発達段階に応じた授業をうけることが できる体制を整えていく必要がある。 | 【努力指標】 「性に関する指導」計画の 分類別に教材の蓄積を行 う。 | 「性に関する指導」計画の中 で、1つ以上の教材が作成されている 項目の割合 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。 | 【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組 みを再検討する。 | 「性に関す る指導」計 画やサー バー内の ファイルに よる評価 (7、2月) |
| 4 業務改善に向け た意識改革 | ① 各学部・課の業務の 実施において、チー ムで業務に当たり一 人一人の負担を軽減 しミスをなくす。 | 全教員 | 職員全体の時間外勤務の時間は減少傾 向にあるが、業務が集中する教員もい る。チームで業務に当たることによ り、平準化を図る必要がある。 | 【努力指標】 学部や課においてチームで 業務にあたることで、業務 の平準化を目指す。 | 学部や課においてチームで業務にあた ることで業務が平準化された。 A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない | 【達成目標 A+Bが8 0%以上】 C以下の場合は、取り組 みを再検討する。 | 教員による アンケート (8月、1 月) |